

原爆被爆者における大腸がん罹患の放射線リスク：1958-2009

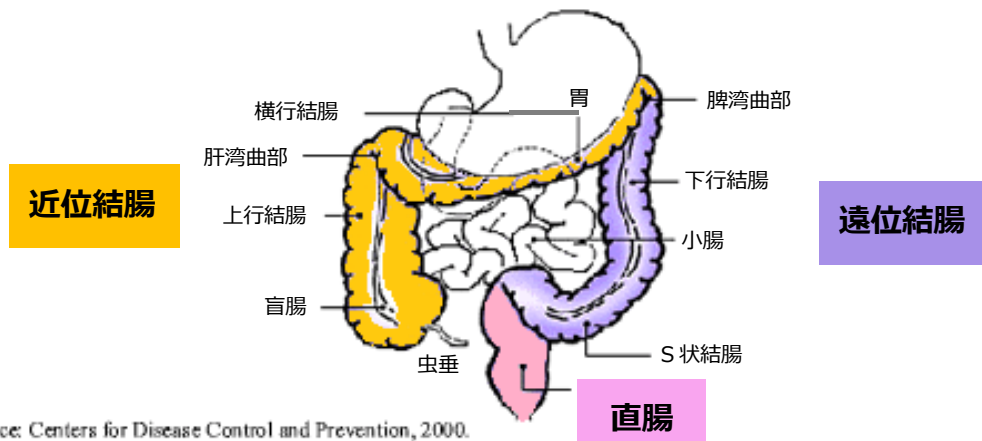
この研究は被爆者 105,444 人の方々を対象に、放射線が大腸がんの発症率にどのように影響を与えているかを調べたものです。生活習慣（喫煙、飲酒、肉摂取）と肥満指数（BMI）で調整しながら、近位結腸、遠位結腸、直腸という部位に分けて（下図参照）放射線の影響を調べました。

1958 年から 2009 年の期間で調べたところ、全部で 2,960 例の原発性*1の大腸がんが見つかり、そのうち、近位結腸は 984 例、遠位結腸は 871 例、直腸は 1,046 例でした。喫煙、飲酒、肉摂取の習慣、BMI はそれぞれ特定の部位のがんのリスクと関連がありました。近位結腸と遠位結腸のがん、それらを合わせた全結腸のがんは、放射線量が増えるにつれてがんのリスクが上昇することが分かりました。

このように、放射線と近位結腸・遠位結腸のがんリスク上昇との関連は見られましたが、直腸がんについての関連は見られませんでした。

*1 原発（性）がん：

医学用語でいう「原発」とは「その臓器から発生する」という意味であり、ここでは「大腸から発生したがん」を指す。これに対し、がんが「他の臓器で発生し転移」してきた場合を「転移（性）がん」と呼んで区別する。



本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は出版社の論文をご覧ください。